

事故情報

平成 27 年の高圧ガスの事故概要について

公益社団法人 東京都高圧ガス保安協会

平成 27 年の東京都内の高圧ガス事故件数の集計結果がまとまりました。東京都環境局環境保安課から公表データをいただきましたので、お知らせします。また、全国ベースにおける高圧ガスの事故件数について、経済産業省から公表されましたので併せてお知らせします。

1. 平成 27 年の東京都内における高圧ガスの事故の概要

東京都における高圧ガス関連の事故件数を表 1 に示します。高圧ガス保安法（以下「保安法」と略す）関係の事故件数は 32 件、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（以下「液石法」と略す）関係は 9 件、総件数で 41 件です。

表 1 平成 27 年 東京都内における高圧ガス事故の発生件数

高圧ガス保安法関係	32 件 (21 件)	災害事故	28 件 (16 件)
		容器の喪失・盗難	4 件 (5 件)
液石法関係	9 件 (8 件)	() 内は平成 26 年の件数	
合計	41 件 (29 件)		

平成 26 年との比較では、前者が 11 件の増加、後者が 1 件の増加となっています。また、保安法関係の事故を現象別に区分すると（表 2）、災害事故（爆発、火災、噴出、漏えい、破裂など）が 28 件（87.5%）、容器の喪失・盗難が 4 件（12.5%）でした。なお、事故の種類、区分（B 級、C 級等）等の定義については、文末に参考資料として付記しますので、ご参照ください。

表 2 平成 27 年 都内の高圧ガス保安法関係事故の現象別件数

事 故 (現象別)		件数	備考 (事故の物質等の区分と件数)
災害事故	爆発・火災	0	
	噴出・漏えい	26	フロン 14 件、炭酸ガス 1 件、窒素 2 件、水素 3 件、アンモニア 2 件、LP3 件、エチレン 1 件
	破裂・破壊等	2	酸素 1 件、LP1 件
喪失・盗難		4	LP 容器 4 件

2. 東京都における高圧ガス保安法関係事故件数の推移（平成10年度～26年度）

保安法関係の高圧ガス事故件数の年度別推移（平成10年度～26年度）を図1に示します。なお、平成27年からは暦年ベースで集計することになりましたので、平成23年から27年までの東京都及び全国における高圧ガス保安法関係の事故件数の経年推移を図2に示します。

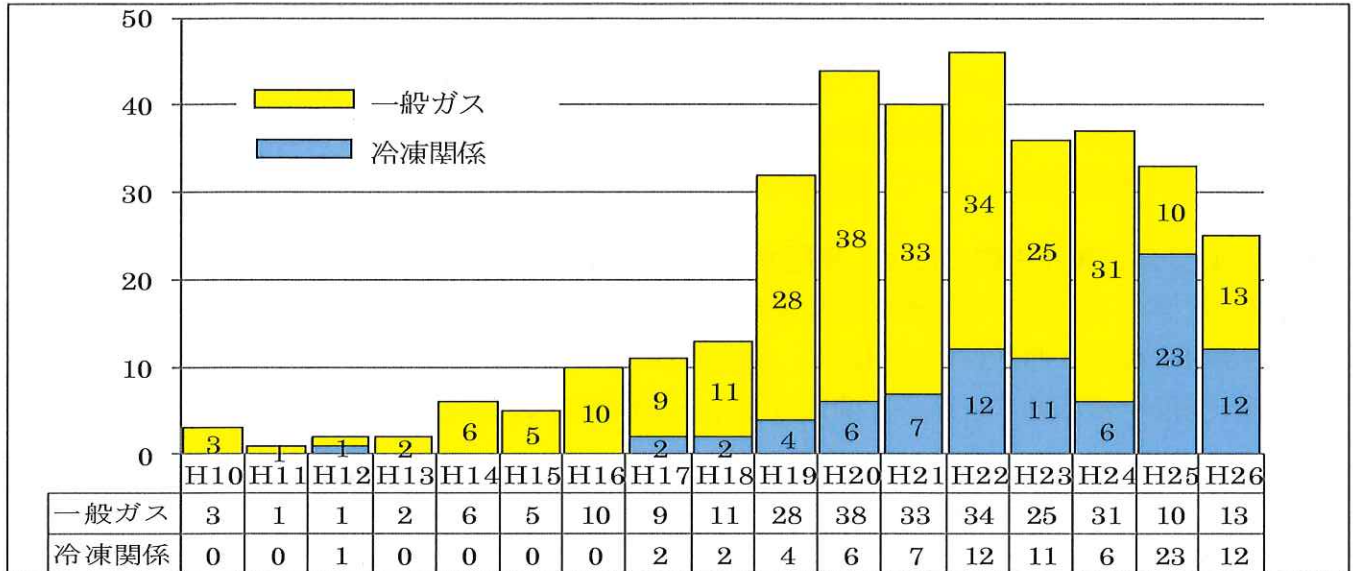


図1 東京都における高圧ガス保安法関係の高圧ガス事故件数の年度別推移

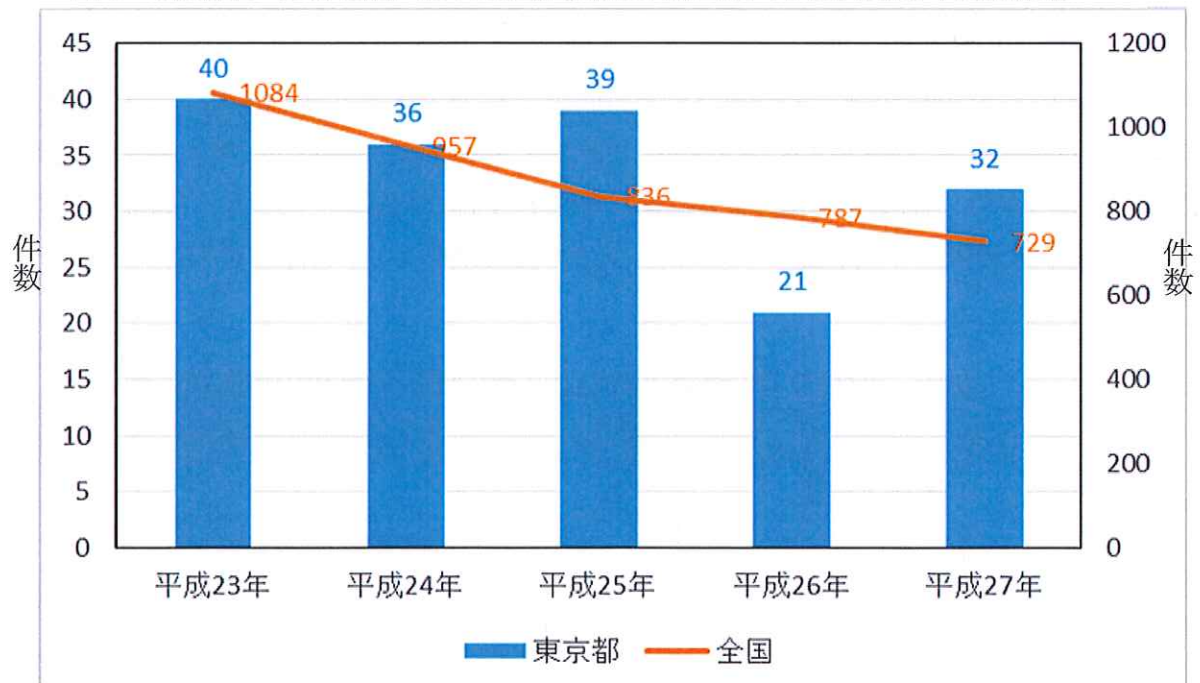


図2 東京都及び全国における高圧ガス保安法関係の高圧ガス事故件

東京都における経年推移をみると、先述したように、平成27年は前年よりも11件増加していますが、5年間の推移をみると、前年の平成26年が特異的に少ないことがわかります。事故件数の推移を全国ベースでみると、平成27年は729件で前年よりは7.4%の減少になっ

ています。また、過去5年間では減少の一途をたどっています（経済産業省調べ^注）。

今年の特徴として、人的被害を伴う事故件数が、平成27年48件で対前年比18件増となりました（経済産業省調べ^注、表3参照）。

注）全国の高圧ガス事故統計の詳細は、以下のホームページを参照のこと。

『高圧ガス事故統計集計表』（平成28年3月）

http://www.khk.or.jp/activities/incident_investigation/hpg_incident/pdf/jiko2712.pdf

表3 過去5年間における人的被害の推移（全国）

年	区分	人身事故件数 (件)	死 亡 (名)	重 傷 (名)	軽 傷 (名)	死傷者 合 計
平成27年		(48)	(2)	(11)	(55)	(68)
平成26年		(30) 30	(3) 3	(9) 9	(62) 62	(74) 74
平成25年		36	2	10	34	46
平成24年		43	3	14	72	89
平成23年		33	1	11	59	71

〔注〕括弧内は集計月までの累計件数。速報値のため、変更等があり得る。

なお、東京都における人的被害の推移は、表4のように推移しています。

表4 過去5年間における人的被害の推移（東京都）

年	区分	人身事故件数 ^(注) (件)
平成27年		3
平成26年		1
平成25年		0
平成24年		2
平成23年		0

〔注〕人身事故件数＝負傷者数

3. 東京都発表「都内における高圧ガス関連事故の概要について（平成27年）」

東京都環境局環境保安課が発表したデータを以下に示します。

平成27年の高圧ガスの事故概要について

平成27年12月末現在

高圧ガス保安法関係	32件(21件)	災害事故	28件(16件)
		容器の喪失・盗難	4件(5件)
液石法[*]関係	9件(8件)		

* 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律

()内は平成26年の件数

1 高圧ガス保安法関係の事故 (20件)

事故の種類			
1	爆発	4	破裂・破壊等
2	火災	5	喪失・盗難
3	噴出・漏えい	6	その他

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
1	日時:平成27年 1月 5日(月) 場所:大田区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	設備運転員が熱源機のエラー表示を確認し、機器メーカーに点検を依頼した。調査の結果、チラー内部のキャピラリチューブ2系統及び縦配管にピンホールの発生。ガスの漏えいを確認。 <事故原因> 経年劣化により、ピンホールが生じ、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0
2	日時:平成27年 1月 8日(木) 場所:葛飾区 区分:C級事故 [喪失・盗難] 被害等:液化石油ガス容器の盗難	液化石 油ガス (以下、 「LPガ ス」とい う)	倉庫の給湯器が使用できなかったため、現場を確認したところ、当該倉庫に設置してあった容器(2本)の内、1本が盗まれていた。 <事故原因> 盗難。	0	0
3	日時:平成27年 1月21日(水) 場所:杉並区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:水素ガスの漏えい	水素ガ ス	試運転調整時に、低圧水素圧縮機で吐出圧力異常高の発報、緊急停止。再稼働後、ガス検知器が発報、水素圧縮機が自動停止。水素圧縮機の4段吐出接合部からガスが漏えいしていた。 <事故原因> 水素圧縮機が圧力異常で緊急停止した際、シリンダー内が急速減圧され、滞留していた高圧水素ガスによりOリングが内側に変形し漏えいしたと推定される。	0	0

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
4	日時:平成27年 3月 3日(火) 場所:荒川区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:水素ガスの漏えい	水素ガス	<p>充填試験を行うため試験用の容器に充填ノズルを接続し、充填を開始した直後に水素ディスペンサー内の水素ガス検知器が発報、シャットダウンした。</p> <p>ハンディガス検知器により、調査した結果、水素ディスペンサー内のハンドルバルブの上流側の継手よりガスが漏えいしていた。</p> <p><事故原因> 定期保安検査時に、水素ディスペンサー内の配管等の増し締めを行った際、当該継手にズレが生じ、漏えいしたと推定される。</p>	0	0
5	日時:平成27年 3月17日(火) 場所:港区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:液化石油ガスの漏えい	LPG	<p>ディスペンサーに設置してある圧力計取付部の圧力検知用の銅管取付部が破損しガスが漏えいした。直ちにガス漏れ検知器が感知し、緊急遮断弁が作動した。従業員が、破損箇所の銅管元弁を閉止した。</p> <p><事故原因> 圧力計取付部の銅管継手部フレアーリング加工部分が、経年により摩耗し、フレアーリング加工部が破断し、漏えいしたと推定される。</p>	0	0
6	日時:平成27年 3月19日(木) 場所:町田市 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:エチレンガスの噴出	エチレンガス	<p>重合試験前に、エチレンガスを置換充填の作業中、原料容器の容器置場に設置されているエチレンセンサーの警報が発報した。容器置場で状況確認したところ、液化エチレン容器に直結しているレギュレーターの2次側からガスの噴出を確認した。</p> <p><事故原因> エチレンを最大流速で流したことにより、ガスの断熱膨張でレギュレーターが冷却され、内部のパッキンの柔軟性が失われ隙間が生じ、ガスが漏えいしたと推定される。</p>	0	0
7	日時:平成27年 3月20日(金) 場所:府中市 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:アンモニアガスの漏えい	アンモニアガス	<p>通常運転中にアンモニアの漏洩検知器が発報し除外装置が作動した。点検を実施したところ、オイル戻し電磁弁本体からガスの漏えいを確認した。</p> <p><事故原因> 電磁弁溶接部が、経年により金属疲労を起し溶接部が破断しガスが漏えいしたと推定される。</p>	0	0

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
8	日時:平成27年 3月25日(水) 場所:荒川区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	<p>冷凍機制水弁不良のため、配管の改修工事を行い、完了後、制水弁用の銅管を修正していた所、クラックが入りガスが漏えいした。瞬間的にガス漏えいを止めようとして、手袋をしないまま漏えい部を閉止しようとして負傷した。</p> <p><事故原因> 銅管の曲りを修正していた所、銅管にクラックが生じガスが漏えいした。銅管に、虫バルブ未挿入であったため、ガスの漏えいを防げなかった。</p>	0	1
9	日時:平成27年 4月 5日(月) 場所:町田市 区分:C級事故 [漏えい火災] 被害等:液化石油ガスの漏えい火災	LPG	<p>液化石油ガス販売店の自宅で、ガスストーブを使用しようとしたところ、誤って未接続の8kg容器のバルブを開けてしまい、ガスが漏えいしストーブの火で引火した。</p> <p><事故原因> 誤って未接続の容器バルブを開けてしまい、ガスが漏えいし点火していたストーブの火に引火した。</p>	0	1
10	日時:平成27年 4月16日(水) 場所:文京区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	<p>冷凍機運転中に吸入圧低圧警報が発生したため冷凍機の運転を中止した。調査をした結果、油冷却器冷媒配管のフレアナットが割れたため、ガスが漏えいした。</p> <p><事故原因> 油冷却器冷媒配管のフレアナットが経年劣化により割れたため、ガスが漏えいしたと推定される。</p>	0	0
11	日時:平成27年 4月16日(木) 場所:新宿区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:アンモニアガスの漏えい	アンモ ニアガ ス	<p>メーカーが冷房切り替え点検中、アンモニア臭を確認。直ちに、冷凍機を停止し、冷凍装置系内バルブを閉鎖し、水による中和処理を実施した。冷媒を回収し、窒素による気密試験の結果、空気熱交換器伝熱管より、ガスの漏えいを確認した。</p> <p><事故原因> 空気熱交換器伝熱管(アルミ管)が経年劣化により腐食したため、ガスが漏えいしたと推定される。</p>	0	0

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
12	日時:平成27年 4月23日(木) 場所:西多摩郡瑞穂町 区分:C級事故〔喪失・盗難〕 被害等:液化石油ガス容器の盗難	LPG	閉栓中の工場の供給設備の調整器を確認するため、販売事業者が現場に赴いたところ、20キロボンベ2本の内1本が無くなっていた。 <事故原因> 盗難。	0	0
13	日時:平成27年 5月 7日(木) 場所:目黒区 区分:C級事故〔噴出・漏えい〕 被害等:窒素ガスの漏えい	窒素ガス	液体窒素の使用時に保冷材から通常より多い冷気が出ているのを発見し、使用を停止した。保冷材を外して点検したところ、CEよりサブクーラー間の配管のろう付け溶接部にクラックが生じ、ガスが漏えいしていた。 <事故原因> 経年の金属の熱収縮により、当該箇所が劣化しクラックが生じ、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0
14	日時:平成27年 5月20日(水) 場所:新宿区 区分:C級事故〔噴出・漏えい〕 被害等:フロンガスの漏えい	フロンガス	保守点検時にガス漏えいを発見。運転を停止し冷媒ガスを回収して、窒素ガスにて気密検査を行ったところ、空気熱交換器出口液冷媒配管部が摩耗し、亀裂が生じガスが漏えいした。 <事故原因> 冷媒配管と配管固定バンドの接触部で、振動により配管が摩耗し亀裂が生じたため、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0
15	日時:平成27年 6月25日(月) 場所:府中市 区分:C級事故〔噴出・漏えい〕 被害等:フロンガスの漏えい	フロンガス	冷凍機1台の操作盤にエラー表示が出て、運転停止した。調査を行ったところ、水熱交換器内部の銅管が破損しガスが漏えいした。 <事故原因> 水熱交換器内部の銅管が経年により腐食し破損したため、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
16	日時:平成27年 6月25日(木) 場所:あきる野市 区分:C級事故 [破裂・破壊] 被害等:フレキシブルホースの破裂	酸素ガス	<p>ロケット燃焼試験開始前に、屋外の酸素供給装置から燃焼設備への送気試験をするため圧縮酸素容器の容器弁類や減圧装置の調整弁を操作したところ、途中のフレキシブル管が発光して破裂し、酸素ガスが漏えいした。</p> <p><事故原因> 酸素容器の容器弁を急開したため容器集合装置元弁との間に断熱圧縮が生じ、集合装置元弁のところで潤滑油やコンタミが内部発火した。作業者はそれに気づかず続けて集合装置元弁、調整弁を順次開けたので、発火物や酸素がフレキシブル管に供給され、管内部から素材が燃焼し、破断したことによりガスが漏えいしたと推定される。</p>	0	0
17	日時:平成27年 7月 2日(木) 場所:稲城市 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:液化炭酸ガスの漏えい	液化炭酸ガス	<p>液体炭酸ガスローリ車から、フレキシブルホースにて充填中、ホースが破損してガスが噴出した。破損したホースが、作業員に当たり、左ひざを9針縫う傷を負った。</p> <p><事故原因> ホースの長期間使用や内部変形を生じさせた外力による口金具加締部のシール性能低下が原因と推定される。</p>	0	1
18	日時:平成27年 7月 3日(金) 場所:町田市 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:液化窒素ガスの漏えい	液化窒素ガス	<p>液化窒素貯槽の液化ガス高圧ポンプの動力伝達部と液化窒素圧送部の連結部が、稼働中に外れ、液化窒素圧送部が貯槽側に強く押し出されたことにより、液ガス吸入配管及び戻り配管に強い力が加わり、両配管の銀ろう付け部が切断され、配管が元バルブ共々脱落したため、貯槽のバルブ閉止が不能となり、貯槽より液化窒素ガスが漏えいした。</p> <p><事故原因> 液化ガス高圧ポンプの整備不良及び配管等が経年劣化による金属疲労で、強度低下が進行し、設備が破損したためガスが漏えいと推定される。</p>	0	0

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
19	日時:平成27年 7月21日(火) 場所:北区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:液化石油ガスの漏えい (オートガススタンドでの事故)	LPG	<p>充填中、水滴が落ちているのを発見し、上を見るとフレキシブルホースの真ん中付近が凍結していたため、直ちにデスペンサーの液送バルブを閉め電磁弁を停止した。フレキシブルホースの凍結箇所には石けん水をかけたところ、泡が出たためガスの漏えいを確認した。</p> <p><事故原因> フレキシブルホースに、微小な亀裂かピンホールが生じたため、ガスが漏えいしたと推定される。現在、メーカーにて詳細な原因を調査中。</p>	0	0
20	日時:平成27年 7月23日(木) 場所:府中市 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	<p>炭酸ガス回収装置の日常点検中に、当該装置の付属冷凍設備の液面計で冷媒量の低下を確認した。ガス検知器により調査したところ、圧縮機の吸入側配管とホットガスの交わるロウ付け溶接部分に亀裂が生じ、ガスの漏えいを確認した。漏えい箇所前後のバルブを閉止し、運転を停止した。</p> <p><事故原因> 圧縮機の吸入側配管とホットガスの交わるロウ付け溶接部の経年劣化により亀裂が生じ、ガスが漏えいしたと推定される。</p>	0	0
21	日時:平成27年 8月 3日(月) 場所:港区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	<p>生産開始前の点検中、製氷室内が白っぽく霧がかかったため、調査した所、製氷機設備の結氷板の配管から冷媒ガスの漏えいを発見した。直ちに、冷凍機の運転を中止し、メーカーにより調査した所、分配器先のステンレス配管と冷却板の溶接部に亀裂が生じ、ガスが漏えいしていた。応急処置として、吸入弁と逆液弁を閉めた。</p> <p><事故原因> 結氷板に付随する配管が経年劣化による、脱氷時の振動のため配管に亀裂が生じ、ガスが漏えいと推定される。</p>	0	0
22	日時:平成27年 8月8日(土) 場所:千代田区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	<p>監視盤にて冷凍機の警報が発令した。直ちに冷凍機の運転を停止した。調査したところ、冷却水側プレート熱交換器のプレートが腐食し、ガスの漏えいを確認した。</p> <p><事故原因> ブレイジングプレート熱交換器が経年劣化により腐食したため、ガスが漏えいしたと推定される。</p>	0	0

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
23	日時:平成27年 8月 9日(日) 場所:大田区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	監視盤に異常表示があり、調査したところ冷凍機に故障表示があった。直ちに冷凍機の運転を停止した。冷媒ガスを回収し、窒素ガスにて漏えい個所を調査したところ、蒸発器伝熱管よりガスの漏えいを確認した。 <事故原因> 蒸発器伝熱管(銅管)が経年劣化によって腐食し、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0
24	日時:平成27年 8月11日(火) 場所:八王子市 区分:C級事故 [喪失・盗難] 被害等:液化石油ガス容器の盗難	LPG	販売事業者が、検針業務で訪問したところ、20kg容器2本のうち1本が転倒防止用チェーンフックを壊されなくなっていた。 <事故原因> 盗難	0	0
25	日時:平成27年 8月12日(水) 場所:文京区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	蒸発器圧力低下の発報があり、調査したところ、ヒートポンプエコノマイザー液面制御用液面タンクの銅管フレア継手部から、ガスの漏えいを確認した。 <事故原因> 銅管接続部に過大な振動がかかったこととギング材が接触していたことにより、銅管が疲労破壊をおこし亀裂が生じ、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0
26	日時:平成27年 8月16日(日) 場所:新宿区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	冷凍機運転中「電動機過熱以上」を検知し、異常停止した。調査したところ、高圧圧力計・高圧開閉器取出し配管にピンホールが生じ、ガスの漏えいを確認した。冷凍機運転停止処置を実施し、冷媒ガスが漏れない処置を行い、冷媒ガスを回収した。 <事故原因> 高圧開閉器取出し配管と給油配管が接触していたため、振動により接触部が擦れ摩耗して、ピンホールが生じ、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
27	日時:平成27年 8月18日(日) 場所:文京区 区分:C級事故〔噴出・漏えい〕 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	保安点検中、冷凍機から冷媒ガスの漏えいを確認した。調査したところ、No.1サーキット及びNo.2サーキットのコイルチューブシートからガスの漏えいを確認した。直ちに冷凍機の運転を停止し、冷媒ガスを回収した。 <事故原因> コイルシートチューブ(銅管)が経年劣化により腐食したため、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0
28	日時:平成27年 8月25日(火) 場所:清瀬市 区分:C級事故〔喪失・盗難〕 被害等:液化石油ガス容器の盗難	LPG	他住宅の容器交換時に、該当住宅を確認したところ、20kg容器が一本が無くなっていた。 <事故原因> 盗難	0	0
29	日時:平成27年10月23日(金) 場所:千代田区 区分:C級事故〔噴出・漏えい〕 被害等:水素ガスの漏えい	水素ガ ス	充填開始時にガス漏洩検知(ブースター上部)が24%LELを検知し、緊急停止した。停止直後に携帯検知器で調査したところ、ブースター吐出逆止弁より、ガスの漏えいを検知した。 <事故原因> 逆止弁のメンテナンス時にグラウンドナットの増し締め不足及び車両の走行時の振動並びにブースター駆動時の振動により緩みが生じ、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0
30	日時:平成27年10月26日(月) 場所:八王子市 区分:C級事故〔噴出・漏えい〕 被害等:フロンガスの漏えい	フロン ガス	定期点検実施時に冷凍機の圧力がゼロとなっていた。窒素ページによるガス漏れ調査で、高圧圧力計・高圧圧力開閉器用取り出し銅配管にピンホールが生じ、ガスの漏えいを確認した。 <事故原因> 銅配管は、当初他の銅配管2本と結束バンドで固定されていたが、結束バンドが経年劣化により切れ、当該銅配管が垂れ下がった。このため、液ライン配管と接触し、運転振動により接触部が擦れたことによりピンホールが生じ、ガスが漏れしたと推定される。	0	0

番号	発生日 場所・事故の種類	ガスの 種類	概 要	人的被害	
				死者	負傷者
31	日時:平成27年11月28日(土) 場所:福生市 区分:C級事故 [破裂・破壊] 被害等:引っ張り事故	LPG	スタンド従業員がタクシーにガスを充填後、充填ホースを車両から外す前に伝票と車両の鍵をドライバーに渡した。ドライバーは充てんホース付けたまま車両を発進させ、引っ張り事故となった。 <事故原因> 充填作業の手順を誤り、充填ホースを取り外す前に鍵をドライバーに返却したため。	0	0
32	日時:平成27年12月 8日(火) 場所:千代田区 区分:C級事故 [噴出・漏えい] 被害等:フロンガスの漏えい	フロンガス	冷凍機の低圧異常の発報があった。調査をしたところ、冷媒回路圧力計が0MPaとなっていることと水熱交換器のフロント側にオイル漏れを確認した。冷媒を回収し、窒素加圧し漏えい調査をしたところ、冷媒配管と水熱交換器の溶接部に亀裂が生じ、ガスの漏えいを確認した。 <事故原因> 経年劣化により、冷媒配管と水熱交換器の溶接部に亀裂が生じ、ガスが漏えいしたと推定される。	0	0

3	噴出・漏えい	26 件
4	破裂・破壊等	2 件
5	喪失・盗難	4 件

ガスの種類および事故の種類別件数一覧

ガスの種類	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小計	合計
酸素ガス	喪失・盗難													0	1 件
	噴出・漏えい													0	
	破裂・破壊等						1							1	
フロンガス	噴出・漏えい	1		1	1	1	1	1	6		1		1	14	14 件
炭酸ガス	噴出・漏えい							1						1	1 件
LPガス	噴出・漏えい			1	1			1						3	8 件
	破裂・破壊等											1		1	
	喪失・盗難	1			1				2					4	
窒素	噴出・漏えい					1		1						2	2 件
水素	噴出・漏えい	1		1							1			3	3 件
エチレンガス	噴出・漏えい			1										1	1 件
アンモニア	噴出・漏えい			1	1									2	2 件
月合計		3	0	5	4	2	2	4	8	0	2	1	1	32	32

【参考資料】

高圧ガスの事故の定義については、経済産業省『高圧ガス保安法事故措置マニュアル』において、以下のように定められています。

高圧ガス保安法事故措置マニュアル（抜粋）

制定 平成13年1月6日付 平成13・01・06 原院第18号
最終改正 平成22年9月30日付 平成22・09・07 原院第4号
経済産業省原子力安全・保安院長発
各産業保安監督部長等、各都道府県知事及び高圧ガス保安協会会長宛

2. 事故の定義等

(1) 高圧ガスに係る事故等とは、高圧法の適用を受ける高圧ガスの製造、貯蔵、販売、移動その他の取扱、消費及び廃棄並びに容器の取扱（以下「製造等」という。）中に発生した事故等で、次に掲げるものをいう。

なお、高圧法の法令違反があり、その結果として、災害が発生した場合には、高圧ガスが存する部分の事故に限らず「高圧ガスに係る事故等」として取り扱う。

- ① 爆発（高圧ガス設備等（以下「設備等」という。）が爆発したものをいう。以下同じ。）
- ② 火災（設備等において、燃焼現象が生じたものをいう。以下同じ。）
- ③ 噴出・漏えい（設備等において高圧ガスの噴出又は漏えいが生じたものをいう。以下同じ。）
ただし、以下のいずれかの場合は除く。

1) 噴出・漏えいしたガスが毒性ガス又は可燃性ガス（液化石油ガス及び天然ガスを除く。）以外のガスであって、噴出・漏えいの部位が締結部（フランジ式継手、ねじ込み式継手、フレア式継手又はホース継手）又は開閉部（バルブ又はコック）であり、噴出・漏えいの程度が微量（石けん水等を塗布した場合、気泡が発生する程度）であって、かつ、人的被害のない場合

2) 完成検査、保安検査若しくは定期自主検査における耐圧試験時又は気密試験時の少量の噴出・漏えいであって、かつ、人的被害のない場合

- ④ 破裂・破損等（設備等の破裂、破損又は破壊等が生じたものをいう。以下同じ。）
- ⑤ 喪失・盗難（高圧ガス又は高圧ガス容器の喪失又は盗難をいう。以下同じ。）
- ⑥ 高圧ガスの製造のための施設、貯蔵所、販売のための施設、特定高圧ガスの消費のための施設又は高圧ガスを充てんした容器が危険な状態となったとき。
- ⑦ その他

(2) 特定事業所に係る事故とは、石炭法第23条第1項の異常な現象をいう。

3. 事故の分類

事故の被害状況により次のとおり分類する。

(1) A級事故

次の各号のいずれかに該当する事故をいう。

- ① 死者（事故発災より5日以内に死亡した者をいう。以下同じ。）5名以上の事故
- ② 死者及び重傷者（負傷の治療に要する期間が30日以上を負傷者をいう。以下同じ。）が合計して10名以上の事故であって、①以外のもの
- ③ 死者及び負傷者（重傷者及び軽傷者（負傷の治療に要する期間が30日未満の負傷者をいう。以下同じ。）をいう。以下同じ。）が合計して30名以上の事故であって、①及び②以外のもの
- ④ 甚大な物的被害（直接に生ずる物的被害の総額が5億円以上）が生じた事故
- ⑤ 大規模な火災又はガスの大量噴出・漏えいが現に進行中であって、大災害に発展するおそれがある事故
- ⑥ その発生形態、災害の影響程度、被害の態様（第三者が多数含まれている場合等）、テレビ・新聞等の取扱い等により著しく社会的影響が大きいと認められる事故

(2) B級事故

A級事故以外の事故で次の各号のいずれかに該当する事故をいう。

- ① 死者1名以上4名以下の事故
- ② 垂傷者2名以上9名以下の事故であって、①以外のもの
- ③ 負傷者6名以上29名以下の事故であって、②以外のもの
- ④ 多大な物的被害（直接に生ずる物的被害の総額が1億円以上5億円未満）を生じた事故
- ⑤ 喪失・盗難以外の事故であって、同一事業所において喪失・盗難以外の事故が発生した日から1年を経過しない間に発生した事故
- ⑥ その発生形態、災害の影響程度、被害の態様（第三者が含まれている場合等）、テレビ・新聞等の取扱い等により社会的影響が大きいと認められる事故

(3) C級事故

A級事故及びB級事故以外の事故